

清泉女学院大学 当日、感想を聞いた学生の発言

学生A

こうやって長野市の課題を挙げて、同じグループでまとめていく中で、みんな安心して暮らせる長野市を求めていると思った。

将来、自分達が選挙に行ったりして、長野市をつくっていかないといけないので、今日の意見交換をきっかけに、もっと長野市の活動に興味を持って、積極的に関わっていきたいと思った。

学生B

いろんなグループを回って、3つの項目をやってきたけれど、自分の考えていないというか、目の届かない範囲の案も出ていたので、刺激のある意見交換だった。

学生C

今回の意見交換で、みんな長野市を嫌いではないけれど、もう少し改善すればもっと良く、住みやすいまちになると感じた。

学生D

学年問わずに話せたのが、楽しかったし、議員と話す機会はなかなかないので、すごくいい経験になった。

学生E

この意見交換を通して、長野市の特徴もわかったし、各グループを回って、みんなが思っていることが共通していることもわかった。

市外から来ているけど、長野市のいい部分と、自分の地域のいい部分・悪い部分のような地域ごとの違いについて学べた。

学生F

議員と関わるのは初めてで、正直テレビで見る国会議員のイメージがあって、寝てるイメージがあったんですが、今日関わってくださった議員の方は、皆さん一生懸命話し合いを進めてくれたりして、ちゃんと仕事をしてくださっていて、安心した。

学生G

冒頭お話にあったように、若者の投票率が低いということで、投票になかなか行かない理由というのは、自分の声があまり反映されないんじゃないかというところがあったんですけど、こうやって議員の方と話をしてみて、いい点だけじゃなくて、ちょっと課題があるなという点もぎくばらんにお話のできたので、自分の声が実際に議員に届いたということで、選挙とかに関心を持つきっかけになった。

いろんなグループを回って、皆さんいろんなことを思っているということが知れて楽しかった。

学生H

箱山議員がふとん屋をやっていると聞いて、議員って議員の仕事だけじゃないんだ、いろんなことやっているんだということを知った。

議員という固い言葉だけで、ちょっと遠い存在になってしまうけれども、実は身近な存在であって、もしかしたら隣に住んでいる人が議員かもしれないし、そういうことを考えると、やっぱりその人のために投票に行くとか、市のことを考えるっていうのが、何かそういう意識づけになるなと思った。

こういう場が広がっていくことで、長野市がもっといい場所になっていくと思ったので、こういう経験をしたことを、知り合いに言ったりして、そういうことから私たちも議員の力になれるんじゃないかなと思うので、そういうことからやっていきたいなと思った。

学生I

普段、こういうことを考えて生きていないので、こういう機会で、改めて自分の住んでいるまちについて、考えるきっかけとなった。